

福島大教育 岡村 益

1. 家族は緊密な対面集団・接触集団であり、家族の基本的機能である socialization も stabilization も、直接間接の接触を通してなされるところに特徴がある。第1報で指摘したように近時、社会の変動は家族間接触を稀薄化させ、ひいては家族解体の徴候ともなることが憂えられているので、家族間接触の機会と接触状況を調査し接触度を測定するとともに既報の親和度との相関を検討して接触の意義に接近し、あわせてこの点に関する指導の指針を得ようとするものである。

2. 方法：第1報に同じ。福島市および隣接郡部の小学校6年生約2500人を母集団とし、両親およびきょうだいをもつ児童931を標本とする。自計式。調査時点は昭和42年7月である。

3. 全数は勿論性別・家族型別にも、接触度得点分布は統計的に正常分布曲線とみなされ、質問の有効性も確かめられた。総平均点は48点満点における34.1、S. Dは4.34である。性別では女兒がやや高くその差は有意である（有意水準5%）が、家族型別には有意差はなかった。職業区分別では得点の高い順にホワイトカラー、専業農兼業農、ブルーカラー、自営業となる。ホワイトカラーと自営業・ブルーカラーとの差が有意であった。また母の就労率が高い群程、接触度が低くなる傾向がみられた。接触度得点と親和度得点との相関係数は0.49であり、かなりの相関があることが明らかになった。